



発行所 ばうむ合同会社
 高知県長岡郡本山町助産 1372
 0887-76-3355 〒781-3609

今日の紙面

大杉小学校で環境教育実施
 カーボンオフセット活動
 干し野菜プロジェクト
 グッズリニューアル
 グッズ取り扱い店舗 拡大

読者テレフォン
 0887・76・3355
 ばうむ合同会社
<http://www.baum-llc.com>

世界に一つだけの看板
 作ります

オーダーメイド看板

詳しくは下記の
 電話番号まで

お店の紹介までもオッケー
 月刊ばうむで何か伝えたいことはありませんか？

「月刊ばうむ」創刊、
 今年一月三日に「月刊ばうむ」を新聞折り込みで
 本山町内に配布したところ
 「執行社員のコメントがよ
 かった。」や、「ばうむはな
 かない人なことやりゆん
 やね。」といった感想が多
 ありました。今後はばうむ
 の事業や商品紹介の他にも
 嶺北地域内のお店や開催イ
 ベントなども紹介をしてい
 き、本山町の方々に限らず、
 さらに多くの人に見て頂け
 るように、嶺北四方町村に
 も配布をしていきたいと思
 います。

大杉小で環境教育実施

嶺北各地で大雪が降り、特に寒さが厳
 しかった先月の十三日、大杉小学校でば
 うむメンバーによる環境教育が実施され
 た。今回は大杉小学校の四年生を対象に
 講習と木工教室が行われ、生徒達はノー
 トをとりながら真剣に受講していた。木
 工教室では授業時間が終わっても作業を
 している生徒もいたが、とても楽しんで
 いる様子で、「生徒が
 楽しんで授業をして
 いるのを見ると、ま
 た環境教育を行いた
 いなと思う。」とばう
 むのメンバーはうれ
 しそうに語っていた。



元氣よく手を上げて発表する生徒たち

カーボンオフセット、始動

カーボンオフセットとは、直
 接的に削減出来ない二酸化炭素
 を森林などのクリーンエネルギー
 の事業に投資することにより
 相殺するというもので、一九九
 七年にイギリスで始まった。現
 在では日本の大手企業もこの取
 り組みに参画しており、環境問
 題が取り上げられると共に、個
 人でも取り組めるエコとして国
 内でも浸透してきている。この
 取り組みは国が厳正に調査をし、
 認証されたものをクレジットと
 して販売をするというもので、
 今年からばうむではこのカー
 ボンオフセットのクレジット販
 売手続きの代行(カーボンオフ
 セットプロバイダー)なども行
 う予定で、企業や市町村と共に
 温暖化対策として取り組んでい
 く予定である。

■カーボンオフセットについて
 詳しくは裏面参照

干し野菜プロジェクト

今年の一月からばうむでは干
 し野菜をオリーブ漬けにしての
 商品化を進めている。よく家庭
 で作られている干し椎茸や切り
 干し大根もこの干し野菜のひとつ
 つで、ばうむが行っているのは
 半乾き(セミドライ)の干し野
 菜である。干し野菜を行うメリ
 ットは、調理をする時、干し野
 菜を使うと調味料が少なくても
 味がしっかりつくことと、調理
 を予定している。

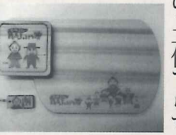
短くなるという点である。他にも野
 菜本来のうまみや甘みが凝縮される
 ということや、切り方を変えて干す
 ことにより食感や味が変わられると
 いうメリットもあり、ばうむではオ
 リーブ漬けにし
 た干し野菜をレ
 ストランや、セ
 ットなどにして
 の個人販売や、



研究中の干し野菜

グッズリニューアル

今年新からたに「志国高知龍
 馬ふるさと博」が開催されること
 となり、ばうむではふるさと博に
 向け、グッズをリニューアルす
 ることとなった。グッズを販売す
 る会場は高知駅前「工佐てらす」
 で、ふるさと博を
 盛り上げ、さらには
 県産品をアピール
 できる良い機会で
 はないかと思う。



リニューアルされたグッズ

グッズ取り扱い店舗 拡大

現在ばうむの商品は空港や美術
 館の売店を含む県内八店舗で取り
 扱っており、今年一月十一日か
 ら新たに香美市の「ルートテラム」
 でも商品を取り扱うこととなった。
 県内でも商品を取り扱う店舗が徐
 々に増えてきており、「お客様に手
 に取っていただける機会が増える
 事がとてもうれしく、ばうむが高
 知県の企業であることを知ってい
 ただき、身近に感じてもらえるよ
 う頑張りたいです。」と製作者は言
 う。



行動の原点
 変化に期待するのはなく
 己の力で未来を描く

「ば」
 万物に感謝し、自然と
 人との調和によって
 恵みが生まれる

「う」
 美しい山間の町から
 みんな笑顔が
 こぼれるように

「む」
 無限の可能性に
 挑戦する

事業内容

地域の中にあるまだ
 十分活用されていない
 資源を活用するこ
 とで、地域の中に雇
 用と所得を生み出し、
 持続可能な地域再生
 の実現を目指します。
 また、地域に残る
 豊かな自然環境を活
 用し、地域内外の人
 たちに安らぎを提供
 したいと思ひます。

レース調の木のマグネット
 税込 ¥840

高さ42mm×高さ7mm
 3個セット

もくレース
 マグネット

もくレースのマグネット版
 冷蔵庫やホワイトボードに貼るもよし
 ちょっとしたプレゼントにも最適!

高知県内のお店や東京銀座の「まるごと高知」でも販売中

もくレース フォトフレーム
 思い出を
 もくレースと共に

税込 ¥1,260

高さ150mm×幅115mm×奥行き17mm

- 木の色合いや手触りが優しいフォトフレーム
- サイドにはレース調のデザイン
- ほのかに嶺北杉のいい香り

ばうむ社内でも販売しております ●詳しくはこちらまで

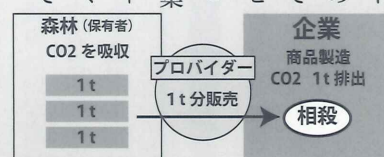
TEL 0887-76-3355
 FAX 0887-76-3365 www.baum-llc.com ばうむ 検索

地域へ貢献会社
 ばうむ合同会社
 〒781-3609
 高知県長岡郡本山町助産1372
 (吉野川リビング協同組合内)

カーボンオフセットとは？

カーボンオフセットとは、経済活動や生活を通過して排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林などのクリーンエネルギー事業などによって直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動のことである。排出された二酸化炭素を何らかの方法で相殺し、二酸化炭素の排出を極力ゼロに近づけようという発想により取り組まれ始めた活動で、カーボンオフセットという言葉も二酸化炭素(カーボンダイオキサイド)を相殺(オフセット)するに由来している。カーボンオフセットは一九九七年にイギリスの植林NGOであった「フューチャーフォレスト」(現カーボンニュートラル社)という団体の取り組みから始り、

現在ではアメリカ、ドイツ、オーストラリアなど海外でも盛んに取り組まれている。日本においても環境省が指針を出し、検討会などを組んでおり、個人や企業向けにカーボンオフセットの仕組みを提供する団体を「カーボンオフセットプロバイダー」と呼んでおり、イギリスやアメリカでは、企業やNPO団体など約数十社がカーボンオフセットを提供しており、近年ではその市場が急成長している。国内でも二〇〇七年にカーボンオフセットプロバイダーが複数設立され、コンビニや自動車、書籍、廃棄物の収集運搬にいたるまでカーボンオフセットを適用した様々な商品やサービスが提供されている。



カーボンオフセットの課題

カーボンオフセットの課題は、この取り組みに対する認識の向上や、国内での取り組み自体の促進、カーボンオフセット市場の育成などの課題が上げられている。この活動は、イギリスやアメリカなど海外で、企業を中心に広く実施されているが、国内ではまだ取り組み始められたばかりの活動であり、その効果を現実するためにはカーボンオフセットの取り組みの概念やその事例などの情報を企業やNPOを中心に個人にも幅広く共有していき、活動の意識を高める必要がある。また、カーボンオフセットの活動を意識した企業やNPO、自治体、個人が取り組みやすいように、取り組みに関する市場を育成することも必要である。次に、カーボンオフセットの取り組みに

対する信頼を作っていく必要がある、カーボンオフセットの取り組みが進んでいるイギリスでは、二酸化炭素を削減するという目的のこの活動が実際には削減されていないという事例があり、二酸化炭素を相殺すれば二酸化炭素排出削減をしないでいいという意見が出てきており、問題化されている。これらの問題をふまえて、オフセットの対象となるものの二酸化炭素の排出量を精密に算出し、結果いくら相殺されたかという情報を個人や企業と共に、ネットやオフセット商品を使って広く情報交換をしていくという事や、オフセットに用いられるクレジットを生み出すクリーンエネルギーを永続的に確保するなどの事によりカーボンオフセットに対する信頼が向上するのではないかと思う。

カーボンオフセットに取り組む企業の事例

ある大手コンビニでは店舗で配布したレジ袋を焼却する際に排出された二酸化炭素を、国連が認証するインドの水力発電プロジェクトによって削減された二酸化炭素で相殺している。これは一〇〇万枚限定の取り組みで、カーボンオフセット付きのレジ袋を、全国の店舗で導入をしている。この活動を取り組むことにより、約二五トンの二酸化炭素を相殺しており、これは東京ドームのグラウンド約二十二個分の面積のズギが一年間に吸収する二酸化炭素とほぼ同量である。大手コーヒーマーカも商品の発売と合わせ、告知のポップが付いたシリーズ全商品を対象に数量限定でカーボンオフセット付きキャンペーンを行っている。それは対象商品を一本購入す

カーボンオフセットはき

カーボンオフセットはきとは、通常のはがき一枚を送る時に排出される約二・八キロ(テレビ視聴七四時間分)の二酸化炭素をカーボンオフセットはがき一枚を購入することに、そのはがき代の一部を寄付金として地球温暖化防止を推進するプロジェクトに寄付し、二酸化炭素を相殺するというもので、主に日本郵政グループが行っている。この活動は国が定めた京都議定書に二〇〇八年から二〇一二年の間に、一九九〇年比で温室効果ガスの削減が数値として義務づけられ、日本はマイナス六パーセントという数値が設定された。二〇〇五年調べでは二酸化炭素の排出がプラス七・八パーセントと逆に増えており、削減へ向けてのさらなる努力が必要となり企

ることで、一本あたり一キロの二酸化炭素排出量の削減に貢献するというもので、その二酸化炭素削減は、「インドTASMA風力発電事業」という事業を通じて実現されたものである。この活動は主に商品を購入する側である主婦の環境への意識が高まっている中で企画されたもので、身近な商品を通じて二酸化炭素の排出量を削減するという社会貢献活動への参画機会の場ともなっている。これらの企業のようにカーボンオフセットを行う企業は多くあり、その多くはキャンペーンや期間限定のオフセット付きの商品の販売、国内や海外のクリーンエネルギー事業への投資をすることによって、この活動に取り組んでいる。そして個人でもオフセットの商品を購入したり、自らクレジットを購入することによりこのカーボンオフセットの活動に気軽に参加することができる。

画された。平成二〇年度には年賀状の寄附金額七四六四万円と郵便事業会社からの同等額の寄附金をあわせ、総額一億四九八五万円をアルゼンチンにおける風力発電事業や韓国の風力発電事業などに寄付することにより二酸化炭素約三万八千七百五十トンが相殺された。これは一日一人当たりの排出二酸化炭素量約三・六キロで換算すると、約一〇六〇万人の一日分の二酸化炭素を相殺したことになる。その事例もあり、このはがきを採用している企業は国内だけで数十社あり、国内では個人でも気軽に取り組みうるものとして注目を集めている。

50枚	オフセット	140kg	=		灯油	54ℓ分
12枚	オフセット	33kg	=		エアコン	±1℃調整=年間33kg
83枚	オフセット	230kg	=		燃費	10kmの車 1000km走行